
守山区の活動事例



守山区

地域に根差した防災対策と訓練



【大森学区】

■世帯数：3,707 世帯

■人 □：8,769 人

■面 積：1.459 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 学区全体で行う自主防災訓練に加え、全 18 町内を5つのブロックに分け、毎年ブロックの実情に合った自主防災訓練を行っている。延べ参加者数は約 420 人。
- ・ 3ヵ年計画で各ブロックに防災倉庫を設置し、レスキューセット等防災備品の充実を図ってきた。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

町内7ヶ所の公園に防災倉庫を設置し、災害時必要最小限と思われる備品（大ハンマー、折りたたみのこぎり、ロープ、カッター、バール、簡易担架となる毛布・竹、ラジオ、拡声器、レジャーテント等）を備えている。

2 きっかけ、背景

近年、たびたび起こる大震災に対し、学区の防災意識と備えが具体性に欠け、とても十分とは考えられないものであった。このような状態では、万一の時に何も対応することができないのではないかという思いから、実践的な自主防災訓練を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
消防団員、大森防災ボランティア
計約 80 人

(2) 他団体との協力

大森消防団、大森防災ボランティア

(3) 運営協力

大森消防団団員のノウハウを生かした指導助言を受けた。また、「くらしの防災セミナー」受講修了者が防災ボランティアとして活動している。

4 実施のスケジュール

H16～18 年 3 カ年計画で各町内防災倉庫及び防災備品の設置

H23 年 4 月 5ブロック町内自主防災訓練日程調整、今尻町・脇田町合同自主防災訓練（初期消火、ケガの手当て）

6 月 大森一丁目（3町内）藪田町合同自主防災訓練（心肺蘇生法、AED）

11 月 学区自主防災訓練、大森二丁目（3町内）合同自主防災訓練（炊出し、初期消火）

H24 年 1 月 大森三丁目（2町内）・四丁目（3町内）合同自主防災訓練（倒壊家屋からの救出、AED）

2 月 元郷一・二丁目・大森西東住宅合同自主防災訓練（心肺蘇生法、AED）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 防災を身近な問題として取り組めた。
- ・ あいさつ程度の近所づきあいだったが、関係が深まった。
- ・ いざという時の備えを学んだ。

(2) 苦労した点

- ・ 回覧だけの案内では参加者が少ないので、組長からの声かけをお願いした。
- ・ 一人ひとり、技術に習熟する時間が少ない。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 毎年の訓練実施のため、訓練内容に工夫が必要。
- ・ 子どもも一緒に参加できる訓練を取り入れ、参加しやすい環境づくりが必要。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 現在のところ特に行っていないが、他学区からの問い合わせがあれば協力したい。



ボランティア大森北(共助による安心安全なまちづくり)



【大森北学区】

■世帯数：2,941 世帯

■人 □：7,217 人

■面 積：1.781 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 災害発生時に民生委員と協力して、高齢者の安否確認等を実施する。支援希望者は 82 人、担当ボランティアは 37 人。
- ・ 小学校や P T A と協力して、登下校時における学童の安全警備を行っている。担当ボランティアは 16 人。
- ・ これらの活動の延べ参加者数は約 2,400 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、地域広報誌で募集、区政協力委員への協力要請

【アピールポイント】

住民有志主体のボランティア活動であり、犯罪や交通事故の抑制に寄与している。

2 きっかけ、背景

都市化が進み、地域住民間の絆が弱くなり、子どもや高齢者の安全対策が不十分になってきた。また、高齢化が進み、災害時に自力で安全を確保できない世帯が増えてきた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、ボランティア会
員登録者 計約 70 人

(2) 他団体との協力

民生委員協議会、大森北小学校及
びPTA、大森北学区自治会

(3) 運営協力

連絡協議会の各団体と定期的に会
合を開き、協力を要請している。

4 実施のスケジュール

H21 年 9 月 ボランティア会設立準備会の設置

H21 年 9 月 ボランティア会員の募集、ユニフォー
ム～22 年 3 月 ムの作成

3 月 ボランティア大森北設立総会の開催
活動方法及び活動内容別担当者を決定

4 月 活動開始
やまびこ部会：災害時の安否確認
みどり部会：登下校の見守り

H23 年 6 月 総会（問題点の洗い出しと対策を協
議）

H24 年 2 月 安否確認、模擬訓練及び自主防災訓練
への参加

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 活動を通じて、住民の意識が高まった。
- ・ 学童とのふれあいが増加した。
- ・ 父兄より感謝の言葉をいただいた。

(2) 苦労した点

- ・ ボランティア会員が増えない。
- ・ 会員の地域バランスが偏っている。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 会員の高齢化による減少が懸念される。
- ・ 他団体との積極的な協力が必要である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ ボランティア会員登録者の確保と増強、
また、地域住民の理解と関心を高める
方策を練ることが重要である。

**地域の安心・安全の向上を願って
ボランティア活動に参加しましょう**
ボランティア大森北

●ボランティア会員を募集しております
みどり部会：大森北小学校児童の登下校時安全見守り
安否やまびこ部会：災害時安全確認と助け合い
子どもたちの安全の見守りと万一の災害発生時には安全
確認と助け合いに地域全体での取り組みが大切だと思
います。

●ボランティア会員へのご参加申し込みは
次のいずれかへ
担当民生児童委員
町内会長
大森北集会所
ボランティア大森北
(伊藤 798-3132)




安心して暮らせるまちづくりのために



【天子田学区】

■世帯数：2,662 世帯

■人 口：6,483 人

■面 積：0.924 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 安心して暮らせるまちづくりをめざして、防犯パトロールを行っている。
- ・ パトロールの際の啓発・呼びかけ内容を、徒歩の部と広報車両の部用に作成するとともに、パトロールを行う上での着眼点をまとめて効果的なパトロールに努めている。
- ・ 月3回実施。3班構成で「防犯パトロール隊」を組織し、持ち回りで学区内全域を約 1 時間かけてパトロールしている。

【住民への PR 方法】

連絡協議会各種団体に協力を依頼

【アピールポイント】

年間を通し、毎月3回実施、平均 20 人が参加している。消防団車両によるパトロール、広報活動を行っている。

2 きっかけ、背景

「犯罪のない、火災のない、交通事故のない」「安心して暮らせるまちづくり」を目的に、学区連絡協議会役員の提案で、平成 17 年 4 月の総会において決議。同年 5 月に防犯パトロール隊を編成し、活動を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 46 人

(2) 他団体との協力

消防団、小学校 P T A など

(3) 運営協力

年間を通じて、各種団体が輪番制で協力している。

4 実施のスケジュール

H17 年 4 月 防犯パトロール隊の編成
パトロール広報文の作成

5 月 防犯パトロール開始、現在に至る



5 成果と課題

成果・効果

- ・ 各種団体が結束し、積極的に参加している。
- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 違法駐車等が減少した。

防犯パトロールの着眼点!!

- 防犯灯の設置が必要な暗い場所はないか
暗い道路や公園では、ひったくりやサカシヤ等の犯罪が心配です。防犯灯を必要とする場所はないか点検しましょう。
各家庭の門灯を一晩中点灯させておくも効果的です。
- 不良少年のたまり場はないか
駅周辺、公園、コンビニの店先等、不良少年のたまり場となっている場所を巡回ルートに加えましょう。
防犯パトロールをしている姿を見せるだけでも抑止効果があります。
- 通学路に異常はないか、子どもに声をかけている不審者はいないか
学校では子どもを誘った声かけ・つきまとい事案の7割以上が、午後2時から午後8時までの間に発生しています。子どもの安全のために通学路に重点を置いた防犯パトロールを行い、防犯パトロールを通じて不審者の発見に努めましょう。児童の帰宅に付き添ったり、交差点で立ち寄りをして安全を確保する活動等も行われています。(見守り活動)
- 水難事故が発生するおそれはないか
河川、用水、ため池等、水難事故の発生が心配される場所を見つけたら、改善を働きかけましょう。そのような場所で遊んでいる子どもには、やめるよう呼びかけましょう。
- 公園等の遊び場に異常はないか
子どもたちが安心して遊べるように公園や広場の監視が必要です。夕暮れ時になったら、早めに帰宅を促しましょう。
- 廃屋、空き家等に異常はないか
廃屋、空き家等は犯罪の産床とならないようにするため、管理者等へ改善の働きかけをしましょう。
- 落書きや不法投棄はないか
落書きや投棄されたゴミ等をそのままにしておくと、地域の環境が悪化し、治安にも悪影響を及ぼすおそれがあります。

災害・犯罪・交通事故のない町づくり



【森孝西学区】

■世帯数：3,178 世帯

■人 口：8,130 人

■面 積：0.720k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 森孝西学区の各町内会で災害救援名簿を作成。
- ・ 年 2 回、森孝西コミュニティセンターで行う高齢者を対象とした食事会において、警察官による犯罪、交通安全に関する講話を実施。
- ・ 森孝西小学校の校庭で、学区の自主防災訓練を実施するほか、町内自主防災会による防災活動も実施している。
- ・ 食事会や防災訓練への延べ参加者数は約 230 人。

【住民への PR 方法】

食事会の参加者の募集は老人クラブに依頼

【アピールポイント】

町内会災害救援名簿を利用して、自主防災訓練で安否確認訓練を行っている。

2 きっかけ、背景

地震災害が起きた場合の住民相互の安否確認体制の整備や、侵入盗・車上ねらいが多発傾向にあるためパトロール体制を強化、高齢者の交通安全に対する意識の向上が求められていた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、少年補導員、学識経験者 計約 44 人

(2) 運営協力

小学校に依頼して、学区内の行事への子どもたちの参加を呼びかけている。

4 実施のスケジュール

H24 年 4 月 学区連絡協議会内の組織の立ち上げ
防災会の編成

9 月 自主防災訓練の実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民が輪番で行う組長、町内会長を一度でも経験した人には、自治会の運営について理解してもらえる。

(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ること。
- ・ 共働き家庭が多く、住民と顔なじみになるのに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 少子高齢社会になり、すべての行事の運営が難しくなっている。
- ・ 活動の担い手の世代交代、一人暮らしの高齢者への支援が課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 近隣学区との連携を密にしていきたい。特に、災害時には、高齢者や幼児等の救出に協力していきたい。



買い物難民問題への取り組み



【本地丘学区】

■世帯数：1,924 世帯

■人 口：3,952 人

■面 積：0.266 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 日常的な買い物に行くための交通手段を持たない買い物難民対策として、公設市場の駐車場および軒先を借用して、毎週土曜日に朝市を開催している。
- ・ 野菜をはじめ豆腐、魚介類などを移動販売してくれる業者を誘致している。

【住民へのPR方法】

掲示板への掲示。テレビ番組や新聞からの取材があった

【アピールポイント】

高齢者の生活支援に役立っているだけでなく、運営ボランティアたちに満足感や達成感が生まれ、住民間の繋がりができてきている。

2 きっかけ、背景

小売市場（スーパーマーケット）が撤退し、学区内の生鮮食料品店がなくなったため、車が無い世帯はバスを使って買い物に行くことになった。学区の高齢化率は約 30%となっており、荷物を持ったままバス停から家まで歩くのが大変だという高齢者の声が高まり、移動販売車を誘致して朝市を開くこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、自主的なボランティア支援者
計約 220 人

(2) 運営協力

商品を置く机の準備、レジ袋詰めなど、人手がかかるため、学区連絡協議会の協力を得て、3～4人の当番制を組んでいる。

4 実施のスケジュール

H24 年度 NPO法人立ち上げの準備

H25 年度 1年かけてNPO法人“ふれあいサロン”の立ち上げ



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 朝市が買い物客の憩いの場になってきており、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

- ・ 最初は、自治会の役員だけで活動を始めため、毎週土曜日に朝市の運営を手伝ってくれる人を確保することに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代、活動資金の確保、他団体との協力が課題。
- ・ 買い物時の情報交換だけでなく、いつでも集まれる“ふれあいサロン”的な環境を整備していきたい。



クリーンキャンペーン



【森孝東学区】

■世帯数：1,961 世帯

■人 □：4,973 人

■面 積：0.553 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区の美化のため、道路、側溝、公園等に「ポイ捨て」されている空き缶、空きビン等の収集と清掃を行うクリーンキャンペーンを年3回行っている。
- ・5月には小学校の全児童と教師が環境学習の一環としてクリーンキャンペーンに参加する。
- ・延べ参加者数は約 500 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

30 年以上継続して活動している。

2 きっかけ、背景

学区の美化について、大人も子どもも一緒に行動することで住民の交流が深まると考え、学区の一斉清掃を行うクリーンキャンペーンを年に3回実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員会、連合自治会、民生委員児童委員会、保健委員会、消防団、PTA、女性団体、子ども会、老人クラブ 計約 10 人

(2) 他団体との協力

地域団体、ボランティア団体、企業、森孝東小学校

(3) 運営協力

小学校に呼びかけて、子どもたちにも参加してもらっている。

4 実施のスケジュール

H24 年
5 月 23 日 第 1 回町美パトロール



10 月 24 日 第 2 回町美パトロール



H25 年
2 月 27 日 第 3 回町美パトロール



5 成果と課題

成果・効果

- ・ 参加者が増加し、住民間の交流が深まった。
- ・ 環境に対する住民の意識が高まった。
- ・ 子どもたちの環境学習に役立っている。



地域ふれあい夏まつり盆踊り大会



【小幡学区】

■世帯数：4,908 世帯

■人 口：11,484 人

■面 積：1.286 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 小幡小学校校庭において、地域のふれあいと交流を目的に夏まつりを開催している。延べ参加者数は約 3,000 人。
- ・ 盆踊りのほか、模擬店が出店し、みたらし団子やお茶の提供、金魚すくいなどを実施。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、掲示板への掲示

【アピールポイント】

平成 24 年度で連続 29 年続いており、参加者数が増加している。

2 きっかけ、背景

災害時の助け合いのために、平時からみんなの顔を見て、ふれあい、話をする
ことを通じて、顔の見える関係を作ることを目的に始めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、老人クラブ、スポーツ推進
委員 計約 110 人

(2) 他団体との協力

小幡小学校および守山東中学校
の各 PTA、学区内協賛店、新聞社

(3) 運営協力

町内ごとに若い方の協力を得る
ため、指名をお願いしている。

4 実施のスケジュール

H24 年 企画委員会、学区連絡協議会
5 月 協賛店にお願い文を通知



6 月 協賛店訪問、広告等打ち合わせ



7 月 協力業者に依頼文の発送



7 月中旬 協力店の打ち合わせ会、やぐら
設置、警備などの準備



7 月 28 日 夏まつり実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者が増えており、初めて 3,000 人を
超した。
- ・ 住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- ・ 設営が早朝 7 時からのため、皆さんにご
苦労をかける。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 毎年協賛金が少なくなっている。今まで
の協賛店の方が高齢化しており、新しい
協賛店が増えない。



ホタルの育成・放流活動とホタル鑑賞会の開催



【小幡北学区】

■世帯数：2,753 世帯

■人 □：6,935 人

■面 積：2.256 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・小幡緑地公園内の白沢川にて、ゲンジボタルの幼虫の飼育、放流活動を行っている。平成 24 年度の放流実績数は 3,200 匹。
- ・毎年 6 月第一土曜日に「ホタル鑑賞会」を開催している。鑑賞会ではポップスバンドによる演奏もあり、音楽を楽しみながらホタル鑑賞ができる。
- ・「小幡緑地ホタルの会」の会員数は 105 人。鑑賞会への参加者数は約 1,000 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

名古屋市内でホタル鑑賞ができる数少ない名所になった。

2 きっかけ、背景

小幡北学区は、県営小幡緑地公園を含む緑と自然豊かな環境に恵まれている。古老が語る“ホタルの飛び交う故郷”を再現しようと、平成 10 年に「小幡緑地ホタルの会」が発足した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

町内会・自治会長、PTA、子ども会 計約 150 人

(2) 他団体との協力

愛知ホタルの会、全国ホタル研究会

(3) 運営協力

小幡北学区連絡協議会、名古屋守山ライオンズクラブ

4 実施のスケジュール

6月 第一土曜日 ホタル鑑賞会の開催

6月末～ 2月末 親ホタルの捕獲・採卵・孵化
幼虫の飼育

3月上旬 幼虫の放流

通年 白沢川の清掃、岸辺の草刈り等

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 学区住民以外にも、市内や名古屋市近郊からの見学者が増えた。

(2) 苦労した点

- ・ 5月下旬～6月中旬まで路上駐車が多いこと。

(3) メッセージ・アドバイス

- ・ 学区住民、特に子どもたちの心に「故郷」を持たせてあげることが大切。

名古屋の自然を大切に・人と自然の調和を！

ホタル鑑賞会

目 時 平成24年 6月 2日(土) 午後7時より9時
雨天決行(雨天プログラムは中止)

場 所 小幡緑地内 白沢川(小幡北小 北広場)

<プログラム>
午後7:00 小幡緑地ホタルの会 会長挨拶
守山ライオンズクラブ会長挨拶(予定)
開 始
7:15～7:45
ポップメロバンド「アンサンブル 2000」による演奏のひととき……
歌の披露は、当日発表の発表申し込みします。
9:00 流し解散

<基本コンセプト>
1. 環境保全の意識とホタルを通じて自然にふれあい、自然保護に対する理解を促す
2. 親子(特に子ども・親父兄)の参加をよびかける
3. 参加形態はフリー
音楽を聴きながらホタルを観るもよし、音楽の後に観るもよし

<お知らせ>
駐車場は毎日のみ、午後9時まで開放されますが、できるだけ徒歩か、公共交通機関でお越しください。当日は雨は通車通りの時間に閉門されます。

主 催 小幡緑地ホタルの会
後 援 名古屋守山ライオンズクラブ



なえしろ あそぼう祭



【苗代学区】

■世帯数：5,549 世帯

■人 □：13,363 人

■面 積：1.455 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ まじめに楽しく防災を学ぶイベントとして、平成 23 年度からを開催している。延べ参加者数は約 500 人。
- ・ 苗代小学校をメイン会場として、非常食レストラン、みたらし屋台、防災マト当てゲーム、防災ワークショップ、“応急担架 de レスキューゲーム”、地下式給水栓の開栓、救命救急講習などを実施した。
- ・ また、学区全域においてクイズ形式で防災を学ぶウォークラリーを実施した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、学区広報紙「なえしろ」で周知

【アピールポイント】

運営者、参加者が自主的に楽しく参加でき、自然に防災の知識を深めることができた。

2 きっかけ、背景

東海・東南海・南海地震等の発生が懸念される中、地域の防災力を高める必要性から、単なる防災訓練ではなく、楽しく参加できるイベントとして取り組むことをめざした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

連絡協議会の参加団体（町内会、民生委員会、児童委員会、保健委員、女性会、消防団、PTA、子ども会育成協議会、老人クラブ、給食ボランティア、青少年育成協議会） 計約 100 人

(2) 他団体との協力

防災ボラネット守山、NPO 法人レスキューストックヤード

(3) 運営協力

運営者も楽しく自主的に参加できることが後継者育成に大切である。

4 実施のスケジュール

H23 年 5 月頃 運営準備開始

9～10 月 本格的な準備

10 月 30 日 「なえしろ あそぼう祭」開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 防災の知識を楽しく学ぶことができ、住民意識が高まるとともに、運営委員メンバー間のコミュニケーションが深まった。

(2) 苦労した点

- ・ 初めての企画だったため、運営全てに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 平成 24 年度も引き続き継続して開催する。
- ・ より多くの人に（運営も含めて）参加してもらえるよう、内容のバージョンアップを計る。



<注意事項>

- ※雨天の連絡。ウォークラリーや防災のプログラムは中止となりますが、体育館内のプログラムは実施します。
- ※参加費は無料です。当日は雨具を持参してください。
- ※体育館内は土足参加です。必要ならば、スリッパ等を持参して下さい。
- ※この祭りは防災体験に入っており、事故やケガのないよう十分に注意してください。
- ※駐車場は先着順です。（雨天は駐車場）
- ※自転車は指定された場所に停めてください。
- ※学校敷地内は「禁煙」です。
- ※参加者は自己の責任で健康を管理し、健康状態がすぐれないときは参加を中止して下さい。
- ※ウォークラリーは申し込み用紙に記入の上、FAXまたは電話で申し込みを必ずしてください。

なえしろあそぼう祭 前代小学校内観内図

ウォークラリー 申し込み用紙

町内会名	_____	町内会	_____
参加人数	大人 _____ 人	子ども _____ 人	合計 _____ 人
代表者 氏名	_____	ご住所	_____
代表者 氏名	_____	電話番号	_____

※申し込みは前代コミュニティセンターまでお申し込みください。お申し込みは10月20日までです。お申し込みは10月20日までです。お申し込みは10月20日までです。

申し込み先 前代コミュニティセンター FAX 052-559-8394 (24時間受付)

平成23年度 地域交通安全活動の一連事業



【守山学区】

■世帯数：4,562 世帯

■人 口：11,290 人

■面 積：1.190k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 通学路の重点拠点（交差点）で交通安全指導を実施。
- ・ 児童への“おはよう・おかえりコール”と住民へのあいさつ運動。
- ・ 交通安全環境を総点検して、行政に改善要望を提出。
- ・ 高齢者の事故減少対策として、運転免許自主返納支援事業を実施。
- ・ 住民を対象に、通行ルールやマナーを学ぶ自転車安全利用講習会を開催。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、区政・連協定例会や民生児童委員会、PTA総会などの会合で周知

【アピールポイント】

「街頭交通安全指導」と「あいさつ（声掛け）運動」が次第に定着して、児童はもちろん、地域住民の方も自然にあいさつを交わすようになり、地域全体が活性化した。住民の意識も高まり、交通安全のみならず、犯罪発生件数も改善の方向にある。

2 きっかけ、背景

当学区は幹線「瀬戸街道」を軸に生活道路が形成されており、名古屋中心部への通過交通車両が多いため、事故発生の危険が高い環境にある。そこで、児童の

交通事故防止を最重点に、地域住民の交通安全意識を啓蒙することとした。同時に、あいさつ運動を行い、地域のコミュニティを形成する。また、学区内に交通危険箇所が見られることや、高齢者への交通安全対策事業の取り組みの必要性があった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会、民生委員
児童委員、PTA、元区政協力委員、
学区連絡協議会委員 計約 100 人

(2) 他団体との協力

守山小学校、守山警察署、守山区
役所、守山土木事務所 など

(3) 運営協力

学区の基本方針「全員参加」の主
旨を継承し、さらなる躍進を図る。

4 実施のスケジュール

H23 年 3 月 平成 23 年度街頭交通安全指導活動日
カレンダー配布

6 月 交通安全総点検を実施、改善要望書提
出（警察署、土木事務所）

10 月 運転免許証自主返納支援事業の実施、
「交通事故ゼロの日」街頭交通安全活
動集会

H24 年 1 月 「自転車安全利用講習会」の実施

2 月 守山小学校主催「交通指導感謝の会」

3 月 交通安全改善要望事項の再点検調整

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 世代間の交流が深まり、子どもの健全育成や日常的に近隣同士で声をかけあうきっかけになった。
- ・ 交通事故や犯罪の防止につながりつつある。

(2) 苦労した点

- ・ 平成 22 年度から学区連絡協議会で部会制を導入し、それぞれの活動を展開している。各委員の協力により、苦労は皆無となっている。

(3) 今後の課題・展望

- ・ この活動をさらに推進して、学区の「安全、安心、快適なまちづくり」を構築したい。

運転免許自主返納・住民基本台帳カード交付の件

① 趣旨は、学区交通安全対策事業にご理解とご協力を願ひ申します。
この度は、守山学区の交通安全推進対策「運転免許自主返納支援事業」にご賛同頂き、
説明会参加の申し込みありがとうございます。
つきましては、下記の通りご案内いたします。

I. 説明会 9月 28日（月） 守山会館 10:00～11:00

① 趣旨内容の説明
② 「住民基本台帳カード交付申請書」の記入
③ 写真の撮影（住民基本台帳カード作成用）

〈持参関係〉
・ 運転免許証

II. 事業実施 10月 5日（水） 守山会館集客 8:50

① 運転免許返納手続き（守山警察署 交通課）
② 住民基本台帳カード交付（守山役所 市民課）
守山会館 9:00 出発 → 警察署 → 区役所 → 守山会館（12:15 予定）
（移動はタクシーを利用します）

〈持参関係〉
・ 運転免許証
・ 住民基本台帳カード交付申請書（事前記入、郵送可）
・ 本人確認書類（写真・ご本人のみ）
・ 運転免許証、他（パスポート、健康保険証、住民票、銀行ATMカード、
〇〇会費カード等々）以上

サロンなかよし



【西城学区】

■世帯数：2,361 世帯

■人 口：5,321 人

■面 積：0.582 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 保健所、地域包括支援センターの協力を得て、血圧管理や健康相談を実施。
- ・ 理学療法士、健康体操指導員によるボランティア講座を開催。
- ・ 警察、消防署による災害・犯罪から身を守る講座を開催。
- ・ これらを地区会館や神社参集殿で実施しており、25 人程度が参加している。

【住民へのPR方法】

民生委員による呼びかけ

【アピールポイント】

主に健康面に力を入れている。

2 きっかけ、背景

地域には住民が交流できる場がなかった。そこで情報共有を行って、防犯、防災、健康づくり等の意識を高めることを目的にサロン活動を開始した。

3 実施の体制

運営メンバー

民生委員児童委員、ボランティア 計約 10 人

4 実施のスケジュール

毎月
第2水曜日 サロンなかよし（1）開催

毎月
第4水曜日 サロンなかよし（2）開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ サロンの開催により、健康づくりや防災、防犯などについて住民意識が高まり、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保に苦労している。
- ・ 中心になって引っ張っていく人が不足している。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動を継続していくことと、活動の担い手の世代交代が課題である。



二城夏まつり(盆踊り)大会



【二城学区】

■世帯数：3,650 世帯

■人 □：9,038 人

■面 積：1.421 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1

活動・取り組みの内容

- ・二城小学校において、地域の交流の場として夏まつり（盆踊り）大会を開催している。参加者数は約 2,000 人。
- ・夏祭りの運営のため、地域の各種団体が協力して運営体制を築いている。
- ・盆踊りのほか、夜店やゲーム、抽選会などを行っている。
- ・住民への広報を徹底して参加者の確保に努めているほか、活動資金の確保のため、協賛者の募集にも力を入れている。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配付、回覧、学区広報誌での周知

【アピールポイント】

学区内には発展会・商工会等がないため、地域住民の手づくりで夏まつりを実施している。

2

きっかけ、背景

盆踊りは、20 年ほど前に子ども会の行事として行っていたが、学区全体の交流の場として、盆踊りを夏まつりに取り込むことで内容を充実・発展させて実施してきた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防団
員、PTA、子ども会、老人クラブ
計約 120 人

(2) 他団体との協力

地域団体、ボランティア団体、企
業、NPOなど

(3) 運営協力

各世代が運営に参加することで、
後継者の育成を行っている。

4 実施のスケジュール

H24 年 5 月 夏まつり準備委員会の発足

6 月 学区広報誌での周知
夏まつり（広報版）での組回覧
夏まつり実行委員会の立ち上
げ

6～7 月 運営体制・役割の決定

7 月 28 日 二城夏まつり（盆おどり）の開
催

8 月 反省会の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

夏まつりの話題を通して、住民と運営側と
のコミュニケーションを図ることができ、各
世代の学区の行事に対する考え方を理解する
ことができた。

(2) 苦労した点

今後も安定的な運営資金をどのように確保
していくか。

(3) 今後の課題・展望

夏まつりを継続して実施することを通して、
学区の他の行事についても内容を発展しなが
ら継続していくことで、担い手の世代交代を
進めていく必要がある。



白沢溪谷桜まつり



【白沢学区】

■世帯数：3,613 世帯

■人 □：9,557 人

■面 積：1.919k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

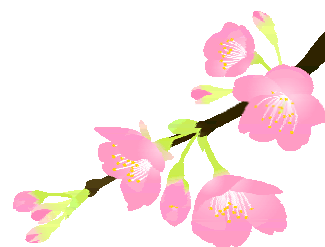
- ・ 白沢溪谷一帯において、春の桜を楽しむ「桜まつり」を開催している。参加者数は約 2,000 人。
- ・ 学区連絡協議会加盟団体や行政を含んだ実行委員会を設置し、催しの企画・運営、参加者の呼びかけ、会場設営を行っており、当日は舞台での和太鼓演奏や舞踊、模擬店出店、フリーマーケット、ミニグラウンドゴルフ、白沢川への稚魚の放流などを行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

2 きっかけ、背景

学区内には市内唯一のつり橋のある白沢溪谷があり、桜の木も多数植わっている。春の桜の季節に、学区民ができるだけ多数集まり、桜の花見を楽しめるようにと毎年開催している。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、行政機関 計約 150 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会加盟の全団体、守山区役所、守山環境事業所、守山土木事務所、ガイドウェイバス

4 実施のスケジュール

1月 第一回実行委員会

2月 第二回実行委員会
催し物の検討・決定、催し物参加者募集

3月 学区内回覧作成、ポスター作成・掲示

4月 桜まつり開催



5 成果と課題

成果・効果

毎年参加者が増加し、住民間の交流が深まっている。



地域ふれあいもちつき大会



【甘軒家学区】

■世帯数：5,631 世帯

■人 口：13,123 人

■面 積：1.189k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・甘軒家小学校の体育館において、もちつき大会を開催している。参加者数は約 1,400 人。
- ・事前準備として、食の衛生管理と保健所等への所定の手続き、事故に対するマニュアルづくりをすることで、当日の安全で円滑な運営に役立てている。
- ・当日はもちつきだけでなく、大正琴とサクソ演奏も行う。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

地域で子どもたちが接することが少なくなってきたが、伝統行事のもちつきをすることで、高齢者および子どもや地域の人々との交流ができ、住民間の絆が深まる。

2 きっかけ、背景

子どもたちに古くからある日本の伝統を継承することを通じて、青少年育成を目的に平成元年から始めた行事である。区政協力委員会をはじめ、地域の各種団体の協力により円滑に運営されている。学区は東西に長くなっているが、学区の中央に位置する甘軒家小学校を会場にすることで、学区全体から満遍なく住民が集まるように工夫している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 80 人

(2) 運営協力

区政協力委員などが運営するため、後継者不足は心配ない。

4 実施のスケジュール

H24 年 12 月 8 日	会場づくり（案内看板の設置、 食事、下ごしらえ用の機の設置、 ごみ袋の設置、洗米）
-------------------	---

12 月 9 日 もちつき大会開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まった。年 1 回の行事なので、地域の人たちの交流の場として今後も長く続けていきたい。

(2) 苦労した点

食の衛生管理と安全の提供。

(3) 今後の課題・展望

大勢の参加者に満足してもらえる餅の量の把握に悩むところである。

(4) メッセージ・アドバイス

もちつき大会を実施したいという地域の要望があれば、資料の提供など適切なアドバイスをします。



災害・犯罪・交通事故のない町づくり



【鳥羽見学区】

■世帯数：3,512 世帯

■人 口：8,405 人

■面 積：0.828 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 地震や大雨による水害といった災害への備えとして災害危険箇所マップを作成している。
- ・ 交通安全に対する住民の意識を高めるため、「交通事故ゼロの日」の交通安全活動を実施している。
- ・ 児童の安全を地域で守るため、児童の帰宅時に家まで送る見守り活動を実施している。
- ・ 防災・防犯夜間パトロールを実施している。（月 2 回）

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配付、区政協力委員会の会議において周知

【アピールポイント】

学区連絡協議会の全員参加体制が確立している。

2 きっかけ、背景

大雨による水害時の浸水被害や、道路の白線がないといった通学路の不備による交通事故を防ぎ、安心・安全で快適なまちづくりを進めるために各種事業に取り組んでいる。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 60 人

(2) 他団体との協力

鳥羽見学区連絡協議会

(3) 運営協力

町内会ごとにリーダーを指名し育成している。

4 実施のスケジュール

H23 年
9 月～ 災害危険箇所マップ作成の打ち合わせ

H24 年
12 月 マップの完成予定



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者が増加し、住民間の交流が深まっている。
- ・ 防災や防犯、交通安全に対する住民の意識が高まった。

(2) 苦労した点

- ・ 町内会長が 2 年で交代するため、継続して活動できる担い手が不足している。
- ・ 参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続のために、担い手の世代交代を進めていくことが課題。



パトロールの強化で 地域住民への防犯意識を高める活動



【瀬古学区】

■世帯数：5,545 世帯

■人 口：13,693 人

■面 積：2,311 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・青色回転灯装備車 3 台による学区内パトロールの実施。
- ・広報誌「瀬古防犯だより」を月 1 回発行。
- ・給食会や各種サロンにおいて、高齢者を対象とした犯罪防止啓発活動（ビラの配布やビデオの上映）を実施。
- ・小学校登下校時における交通指導とあいさつ運動の実施。
- ・守山警察署、守山区役所の要請を受けて各種キャンペーンなどに協力。
- ・活動への延べ参加者数は約 500 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、地元商店街の店先にポスター掲示

【アピールポイント】

防犯隊組織をフルに活用し、他団体との連携を密にして活動している。また、守山警察署や守山区役所からの活動要請を積極的に受け入れ、連携を密にしている。防犯隊発足以来、警察署及び愛知県、名古屋市から感謝状を多数授与されている。

2 きっかけ、背景

子どもに関係する犯罪が全国的に多発していたほか、街頭犯罪（特に住宅対象侵入盗・自動車車上犯罪）が多発していたため、「私たちの街は私たちの手で守る」のスローガンのもとに、防犯に対する取り組みへの機運が高まり、防犯隊を発足した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、PTA、子ども会、瀬古防犯隊
計約 30 人

(2) 他団体との協力

瀬古消防団、瀬古小学校 P T A、瀬古福祉推進協議会、青少年育成会

(3) 運営協力

町内会との連携、広報（瀬古防犯たより）による呼びかけ

4 実施のスケジュール

H24 年
4 月

- ・瀬古小学校の新入生保護者向け子ども事故防止の啓蒙
- ・青パト乗車講習会

5 月

- ・総会
- ・瀬古小学校運動会における学校周辺の交通整理と警備

6 月

住宅侵入防止対策講習会の実施

7 月

- ・守山・旭「犯罪なしの日」の青パト出発式
- ・PTA一斉パトロール
- ・間黒神社及び高牟神社夏祭りでの交通整理

8 月

学区夏祭りでの会場周辺の交通整理と警備

9 月

- ・役員会
- ・防災の日に瀬古小学校児童の引き渡し訓練

10 月

- ・高牟神社秋祭り交通整理

12 月

- ・役員会
- ・瀬古小学校 2 学期終了時の同伴下校

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・防犯組織発足から満 7 年が経過し、地域住民の防犯意識も高まり、活動への参加者も年々増えている。また、パトロールを通じて住民間の交流が深まった。
- ・子どもに関する犯罪がなくなった。

(2) 苦労した点

- ・防犯隊組織が活動主体であり、活動を始めた当初は他団体との連携・調整に苦労したが、改善されてきた。

(3) 今後の課題・展望

- ・現在は自主防犯団体として活動しているが、将来は名古屋市に認知された組織にするのが望ましい。それによって、活動資金などの悩みも解消できる。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・防犯活動では、学区区政協力委員会と学区連絡協議会（防犯隊組織・福祉関連組織）との連携が必要。



提灯山と納涼盆踊り大会の伝統継承



【志段味東学区】

■世帯数：3,299 世帯

■人 □：9,003 人

■面 積：6.973km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

勝手社、上志段味公民館前広場にて、伝統行事である納涼盆踊り大会を開催している。延べ参加者数は約 1,000 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

戦前から続く提灯山の山建て作業は、人力で行う昔ながらの方法で行われている。提灯の中にロウソクを灯して、約 2 時間強ほのかな明かりのもと、提灯山の下に踊りの輪ができ、賑わいをみせている。

2 きっかけ、背景

戦前から行われている当地域の伝統行事であり、昭和 20 年中頃までは、旧暦 7 月 17 日(久岑寺境内)と 7 月 22 日(氏神勝手社境内)に提灯山を建て、その下で盆踊りが行われていた。その後 2 か所での継続ができなくなり休止状態となったが、40 年代後半に再開の機運が高まり現在に至る。学区の開発が進み、他地域からの転入者が激増している当地域として、伝統文化の継承と同時に住民同士の交流促進につながる行事となっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、氏子役員、提灯山保存会
計約 16 人

(2) 他団体との協力

老人会、保健委員会、民生児童委員会、学童保育所、舞踊会、提灯山保存会

(3) 運営協力

実行委員会を数回開催し、共通理解を得るとともに役割分担をしている。

4 実施のスケジュール

6 月下旬 第 1 回実行委員会（実施事項の決定）



7 月中旬 住民への P R、広報活動



7 月下旬 第 2 回実行委員会



第 3 回実行委員会
・各種協力団体・ボランティアによる会場準備
・提灯山保存会による伝統継承訓練の実施



8 月中旬 前夜祭（8 月 12 日）
本会は 13 日開催（固定）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 年々参加者が増加している。
- ・ 一緒になって準備することにより、住民相互の交流の場になっている。

(2) 苦労した点

- ・ 提灯山の山建て作業の方法を受け継ぐ若い人が集まらない。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 提灯山の山建て作業の継続を目的に、提灯山保存会を自治会内に設け、伝承作業をする組織を平成 19 年に発足し、現在に至っている。
- ・ 担い手の世代交代及び活動資金の確保が課題である。



納涼夏まつり盆踊り大会



【志段味西学区】

■世帯数：1,989 世帯

■人 口：5,936 人

■面 積：1.605 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

「住民の人と人とのつながりをつくること」、「大人と子どもの結びつき」、「地域ごとではなく学区全体で住民間の交流を深めていくこと」を目標に、平池中央公園で納涼夏まつり盆踊り大会を実施している。参加者数は約 800～900 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配付、回覧、広報車で町内を巡回をして周知

【アピールポイント】

年 1 回のお祭りを楽しみにしているグループホーム（高齢者介護施設）入所者の嬉しそうな顔が、見る人をほっとさせてくれる。

2 きっかけ、背景

志段味西学区は、区画整理事業が完了した現在、従前からの居住者は約 1 割となっている。新しく編入された地域の住民との交流の場が全くないため、世代間の交流や住民間の交流を深めることを目的として、夏まつり盆踊り大会を実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、保健委員、子ども会 計約 30 人

(2) 他団体との協力

子ども会、学童保育所の協力、企業からの協賛

(3) 運営協力

小学校への声かけ、子ども会、保健委員会へ協力を要請

4 実施のスケジュール

H19 年 4 月 吉根学区独立により、学区の人口・面積が縮小



H20～22 年 吉根東連合として祭りの実行（小規模）



H23 年 8 月 吉根東連合として祭りの実行



H24 年 8 月 下志段味学区と分離し、志段味西学区として初めて
夏まつり盆踊り大会を開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者が年々増加傾向にある。
- ・ 住民間の交流ができつつある。
- ・ 住民に自分たちの町の祭りという意識ができつつある。

(2) 苦労した点

- ・ 役員が何から何までやらなければならないので、活動の担い手が足りない。
- ・ 協力に手を挙げる団体がなく、他団体との協力に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 今後も活動を継続する予定だが、人材が不足しており、担い手の世代交代や他団体との協力が課題となっている。

みんなの手でみんなのまちを美しく住みよい環境を



【吉根学区】

■世帯数：2,484 世帯

■人 口：7,467 人

■面 積：2.884 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

美しく、住みよい環境づくりのために、以下の活動をしている。延べ参加者数は約 1,000 人。

- ① 道路の草刈り
- ② 側溝の土等の掃除
- ③ 空缶・ペットボトル・ビニール袋の回収

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

2 きっかけ、背景

平成 23 年に、市から重点指定区域に指定された。参加人数が多く、住民からの継続を求める声もあったため、翌年以降も継続して実施することとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、各自治会長 計約 18 人

(2) 他団体との協力

地域の企業等

(3) 運営協力

連絡協議会に自治会活動の一環として総会時に賛同を得ている。

4 実施のスケジュール

4 月 14 日 24 年度総会に提案、承認

4 月 21 日 定例会議で開催日および雨天時の予備日を決定

5 月 19 日 行事实施日の案内（回覧）

5 月 29 日 区役所、土木事務所、環境事業所との調整

6 月 2 日 14 自治会長宅に各種道具配布

6 月 3 日 清掃実施

6 月 4 日 土木事務所、環境事業所にゴミ等の回収を依頼、借用物の返納

6 月 19 日 定例会議にて結果報告および反省会、回覧板で報告、お礼

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 昨年に比べて参加者が増加した。
- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- ・ 企業所有地（会社、商店等）での清掃活動への協力が得られないので、その一帯の除草等ができていない。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 学区連絡協議会・連合自治会の毎年の総会で承諾を得ること。
- ・ 企業に協力を要請すること（年 1 回でも実施してもらう）。
- ・ 活動資金の確保。



志段味青空子ども会



【下志段味学区】

■世帯数：1,833 世帯

■人 □：5,204 人

■面 積：2.388 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 9 月初旬から 10 月初旬まで、保存会の指導のもと御神楽の練習を行う。
- ・ 秋祭り当日、八幡神社にて御神楽を奉納する。その後、獅子頭を先頭に、子どもたちが町内の各家庭を訪問し、地域の幸せ、安全・安心を祈願する。
- ・ 延べ参加者数は約 250 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

地域の高齢者から御神楽の指導を受けることにより、地域の大人と子どもたちとの交流が生まれ、地域の繋がりが深まる。

子ども会会員だけでなく、未加入の小学生や未就学児にも門戸を開いており、祭り当日は親子で参加することができる。

2 きっかけ、背景

地域の伝統や歴史・文化の継承を通じて、世代間の交流や子ども・青少年の健全育成を図る。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

町内会・自治会長、子ども会
計約 250 人

(2) 他団体との協力

御神楽保存会

(3) 運営協力

御神楽に参加し、卒業した中学生
に今後の指導を依頼する。

4 実施のスケジュール

8 月中旬 子ども会会員（4 年生以上）に
御神楽への参加募集



練習開始
9 月初旬 笛と太鼓に分かれてOB顧問
（中学生）の指導で練習



9 月下旬 笛と太鼓の合同で練習



10 月 御神楽奉納後、各家庭を巡回

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民の意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 各家庭と地域との交流が一層密になった。
- ・ 担い手が増加した。

(2) 苦労した点

- ・ 子ども会を卒業した中高生は、部活や塾などで忙しいため、子ども会OBの指導者が不足している。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 顧問の高齢化により練習の指導が難しくなっている。

